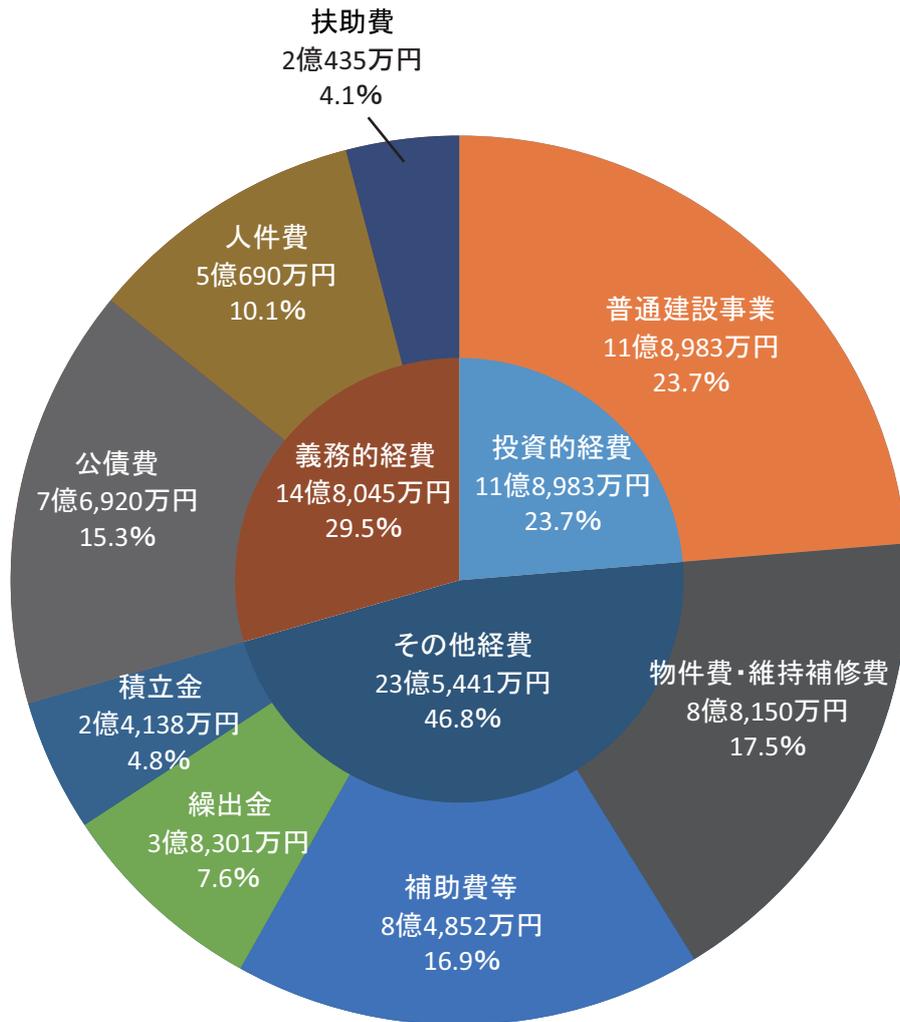


平成28年度の一般会計・特別会計の決算が9月議会において認定されました。

決算とは、1年間に、税金や補助金などの収入（歳入）がどのくらいあり、それがどのように使われたのか(歳出)を会計ごとに集計したものです。今回は、その概要についてお知らせいたします。

## 用語解説

**自主財源**…町が自主的に収入できる財源。町税や使用料等。 **依存財源**…国や県から交付されるお金や借入金。 **地方交付税**…地方公共団体の財政状況に応じて国から交付されるお金。 **町債**…町の借金。 **公債費**…町債の元利償還金等。 **義務的経費**…支出が義務付けられ任意に削減できない経費。 **投資的経費**…道路、橋りょう、公営住宅等の社会資本の整備等に要する経費。 **扶助費**…法令に基づき支出する各種扶助費用。児童手当、生活扶助等。 **繰出金**…他の会計に支出するお金。



**一般会計歳出 50億2,469万円**

歳出合計は、50億2,469万円となり、前年度比21億2,506万円（29.7%）の減となりました。

歳出減少の主な要因は、普通建設事業費11億8,983万円（前年度比21億825万円減）の減少によるものです。平成28年度の主な事業は、ごみ処理施設整備事業4億5,420万円です。

一方で、隠岐航路運賃低廉化事業等により補助費等3,958万円増、借り入れた町債の返済に伴う公債費6,808万円増が増加額の大きなものとなりました。

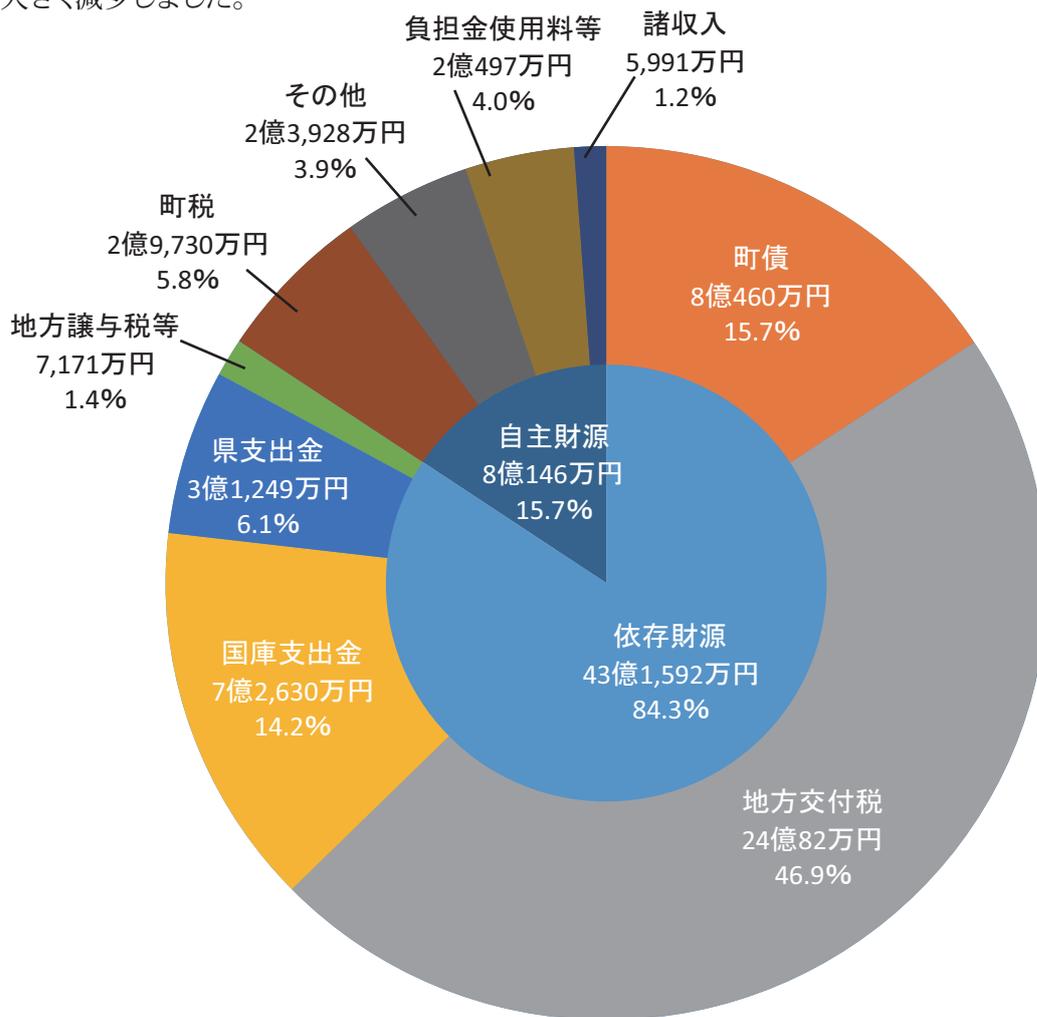
## 決算報告

## 一般会計

## 歳入・歳出ともに大きく減少しました

一般会計の歳入歳出の総額は、歳入 51 億 1,738 万円、歳出 50 億 2,469 万円となり、形式収支は 9,269 万円、翌年度に繰り越すべき財源 2,361 万円を差し引いた実質収支も 6,908 万円の黒字決算となりました。

平成 27 年度に比べ、歳入は 20 億 7,999 万円減、歳出は 21 億 2,506 万円減と歳入歳出ともに大幅に減少しました。主な要因は、平成 27 年度に竣工した学校建設事業の普通建設事業によるもので、それに伴い財源の町債も大きく減少しました。



一般会計歳入 51 億 1,738 万円

歳入合計は 51 億 1,738 万円となり、前年度比 20 億 7,999 万円 (28.9%) の減となりました。

歳入のうち、町税などの自主財源の合計は、8 億 146 万円で、前年度比 11.4% 減となっています。うち町税は、2 億 9,730 万円 (前年度比 2,075 万円の増。電力関連施設分固定資産税の増) で自主財源の 37.1% を占めています。自主財源が減少した主な要因は、ふるさと納税 1,687 万円の減、平成 27 年度プレミアム商品券販売収入分の諸収入 4,800 万円の減が挙げられます。

地方交付税などの依存財源の合計は 43 億 1,592 万円で、歳入全体の 84.3% を占め、前年度比 19 億 7,648 万円 (31.4%) 減となっています。減少した要因は、学校建設事業が完了したことに伴う町債の減少によるものです。依存財源のうちで最も大きな割合を占めているのは、地方交付税 24 億 82 万円で、次いで町債 8 億 460 万円となっています。